

# 東海 3 県の児童養護施設における食事状況調査

NPO 法人 こどもサポートネットあいち

〒463-0058 愛知県名古屋市北区西志賀町 5-13-1

## 助成事業の概要

児童養護施設における食事の現状と問題点を明らかにするとともに、児童が施設を退所後、健康で安定した食生活を送ることができるような「食の支援」を行うための基礎資料となるデータを得ることを目的に、愛知・岐阜・三重各県に所在する児童養護施設（本体施設・地域小規模児童養護施設）の生活担当職員及び献立作成者を対象に、アンケート調査を行った。

2023 年 6 月に各施設へ調査用紙を送付し、概ね 8 月中に回答を得た。調査内容は、児童養護施設における本体施設及び地域小規模児童養護施設の食事状況、児童養護施設の生活担当職員及び献立作成担当者の施設の食事、食育、食事づくり、栄養士の児童の食への関わり、献立作成の状況などについてである。

## 事業の成果

対象 55 施設のうち回答があった施設は、本他施設（以下：本体）が 41 施設（回収率 74.5%）、地域小規模児童養護施設（以下：小規模）41 施設（有効回答 40 施設）、献立作成者（以下：作成者）38 施設（回収率 69.1%）であった。小規模については施設によって設置状況が違い、設置数のデータがないため回収率は不明である。アンケートの主な結果は以下の通りである。

### 1) 生活担当職員の調理状況について

本体で児童の日常の食事づくりをしているもの

は、「下ごしらえからすべてしている」が 36.6%、「料理の仕上げのみしている」が 9.8%であった。児童の日常の食事を調理する頻度は、学校が長期休校中で本体は「週に 1～2 回」が最も高く 26.3%、小規模は「週に 5 回以上」が最も高く 47.5%であった。学校が長期休校中以外では、本体は「週に 1～2 回」、「週に 3～4 回」が同率で 31.6% と最も高く、小規模は「週に 3～4 回」が最も高く 42.5%であった。

### 2) 食事づくりの負担感

食事づくりの負担感について、本体は「あまり負担ではない」が最も高く 52.6%であり、「少し」と「とても」を合わせた負担を感じているは 21.0%であった。小規模は「少し負担」が最も高く 37.5%であり、「とても」を加えて負担を感じているものは 40.0%と、小規模の方が負担を感じていた。

### 3) 食育について

食育への関心については、作成者の無回答者以外は、全て「とても関心がある」、「どちらかと言えば関心がある」と回答しており、作成者以外も食育への関心が高いことがわかった。小規模の食育に関心がある理由に、小規模の担当になって食育に関心を持ったというものが複数あり、児童の食に直接関わることで食育に関心をもつことにつながると考えられる。

必要と思う食育は「食事のマナー」が本体 70.7%、小規模 70.0%、作成者 52.6%、「食べ物を無駄にしない」が本体 63.4%、小規模

52.5%、作成者 63.2%、「みんなで楽しく食事をする」が本体 48.8%、小規模 45.0%、作成者 36.8% などが高かった。

データが得られると思われる。

#### 4) 児童の食に関する課題

児童の食に関する課題として「好き嫌いが多い」が、本体 51.2%、小規模 40.0%、作成者 50.0% と高かった。本体は「感謝の気持ちがない」が他より高く、小規模は「料理の仕方がわからない」、「食材の名前がわからない」、「食事のマナーがわからない」が他よりやや高かった。

## 成果の広報・公表

今回の調査結果について報告書を作成し、全国の児童養護施設に配布するとともに、本 NPO 法人のホームページにおいても公表する。また 2024 年 6 月に開催される、第 51 回全国児童養護問題研究会全国大会の分科会「子どもの生活づくり」にて、実践報告を行う。

児童養護施設の食事に関する調査は限られておりデータも少ないことから、上記以外にも機会があれば積極的に公表していきたい。

## 今後の展開

調査結果で得られた結果について関係学会等での発表・論文投稿を行い、児童養護施設関係者以外も含めて、データを周知していきたい。

今回は児童養護施設の職員のみを対象に調査を行ったが、児童養護施設で生活する児童の「食の支援」が目的であり、今回の調査結果を踏まて 2024 年度に児童を対象にした、児童の食や生活に関する状況、食に関する意識や知識などについてのアンケート調査を予定している。多くの児童に回答してもらうことができれば、詳細な分析を行うことができ、児童の支援についての有効な